



広島ユネスコ協会



https://www.unesco.or.jp/hiroshima/

わたしの平和宣言

- すべての人の生命を大切にします
 - どんな暴力も許しません
 - 思いやりの心を持ち、助け合います
 - 相手の立場に立って考えます
 - かけがえない地球環境を守ります
 - みんなで力を合わせます
- (「わたしの平和宣言」は、ノーベル平和賞受賞者たちが起草した6項目の誓い)

広島ユネスコ協会

設立50周年『記念の集い』

SDGs 推進 平和へ、強め広げよう“市民の声”

広島ユネスコ協会設立50周年『記念の集い』は、3月3日(日)、松井一實広島市長らを来賓に迎え、原爆ドーム保存基金への寄付、活動奨励賞授賞式、記念講演会、ミニコンサートなどを晴れやかに開催、祝賀会も催し新たに出發しました。

の反省の上に創設された国連機関・ユネスコの憲章に則り、1973年(昭和48年)6月に発足(当時はクラブ)。以来、平和運動推進の民間団体として、『高校生国際理解セミナー』や『サロン』(講演会)、『活動奨励賞』の授与、『平和の鐘を鳴らそう』の集い、『韓国ユ



活動奨励賞授賞式



活動奨励賞授賞式



ドーム基金に寄付



記念ミニコンサート

広島少年合唱隊の皆さんに出演していただきました。この合唱隊は1960年(昭和35年)に「少年の持つ歌声をのびし、音楽を通して平和都市広島の街づくりに役立ちたい」という目的で誕生しました。構成メンバーは5歳から高校生までの約30名です。「しあわせになあれ」「地球星歌」などを歌っていただきました。(文化部長 高田幸子)



来賓・広島市長 松井一實氏



来賓・日本ユネスコ協会連盟 理事長 鈴木佑司氏



来賓・広島県ユネスコ連絡協議会 会長 池野龍男氏 (写真左側奥列にて)



広島ユネスコ協会 会長 松岡盛人氏

ネスコ大邱協会との交流』などを通し、SDGs推進に努めてきました。設立当初から広島ユネスコ協会の活動に携わってきた古田碩永副会長は「50周年を迎えるとは夢にも思わなかった。燃え尽きてしまうのではないかという思いになったこともしばしばあった。その都度、多くの皆さんのお力添え、先輩諸氏の励ましの言葉をいただいた。それらがなければ今の広島ユネスコ協会はなかった。感無量の思いです」と語っています。

記念講演

演題『国際情勢とG7広島サミット後の広島の平和への取り組み』
講師・公益財団法人 広島平和文化センター 理事長 香川剛廣氏



首長会議の加盟都市の拡大、平和の文化づくりの推進などを訴えられました。

講演を聞き、「私たち一人一人は、手をこまねいているだけではなく、広島から平和の叫びを発信していかなければならない」と痛感しました。(広報部会) 講演内容はHPに

原爆ドーム保存基金へ寄付

広島ユネスコ協会は50周年を記念し、広島市原爆ドーム保存等事業基金へ「原爆ドーム絵はがき」の売り上げ代金の一部を寄付しました。

活動奨励賞

受賞6団体の活動骨子と講評は2頁に掲載

広島ユネスコ活動奨励賞

6団体へ

広島ユネスコ活動奨励賞は四半世紀を越えて、多くの皆様方のご支援とご協力をいただき、第26回の授賞式を開催することができました。心より御礼申し上げます。
(教育部会長 坂本美智子)

【学校部門】

広島市立三篠小学校

地域の歴史を学び、人々との交流や藍の栽培活動を通して、地域コミュニティの活性化を進め郷土愛を育む取組

広島市立砂谷中学校

地域の資源を生かし竹林整備や牧畜・農業への関心を高めるとともに、地域住民との協働で進める地域貢献活動

広島大学附属高等学校

1969年ユネスコ班設立以来、長きにわたり平和の大切さの発信を基に、生徒自身による様々な平和活動の実践

広島県立海田高等学校

地域社会との連携による国際交流や、日本独自の衣・食文化のよさを継承・発展させ

講評(一部抜粋)

由井義通選考委員長(広島大学 大学院教授)

由井選考委員長は、「第二次世界大戦後、今ほど世界中が平和な世界を渴望している時代はない」と前置きされ、ユネスコは平和の構築には教育が大事だとして設立された機関だからこそ、平和な社会の実現に向けたユネスコ活動の重要性が強調されるべきと力強く話されました。

本賞の選考にあたっては、「広島ユネスコ協会の主催による顕彰であることから、単なる学習活動や地域活動ではなく、ユネスコ精神の理念を踏まえた『平和の文化』を築く実践的な活動の育成という趣旨に基づき、活動内容の継続性や獨創性、普及状況、社会や市民への活動の広がりなどの観点を重視して、審査を行った」と説明され、各団体の活動について、評価のポイントを次のように述べられました。

「広島市立三篠小学校の藍染体験や広島市立砂谷中学校の竹林整備などの郷土学習は、地域への愛着を育て持続可能な地域づくりへの取り組みを評価」

る等、多彩な活動を実践

広島文教大学 パパママ応援団ぶんこ

2006年から学生主体で進める、地域の子育て家庭を支援する「子育て広場」の開催や学外施設での地域貢献活動

【社会部門】

特定非営利活動法人 宮島ネットワーク

宮島の自然保護を目的とし、長年地域住民と連携してアサリ浜の再生活動や海岸清掃・樹木保護等、自然と生物多様性を守る環境保全活動

由井選考委員長(広島大学 大学院教授)

「広島大学附属高等学校は、高校生のクラブ活動としての20年以上の継続的な平和学習の活動を評価」
「広島県立海田高等学校は、地域との連携による伝統文化の継承・普及と国際交流・国際協力など多様な活動の取り組みを評価」
「広島文教大学のパパママ応援団ぶんこは、長年にわたる学生の主体的活動による子育て広場の取り組みを評価」
特定非営利活動法人宮島ネットワークは、宮島の自然保護やアサリ再生事業、海岸の清掃活動など、地域の人々との共同作業が長年継続されていること」をそれぞれ評価されました。

由井委員長は最後に、「今後、国内外の多様な立場の人たちが協力しあつてネットワークを広げ、互いに認め合いながら、地域の持続性に貢献できる、さらなる活動の展開と発信を期待している」と、これからの活動に期待を寄せてくださいました。
(教育部会長 坂本美智子)

由井選考委員長(広島大学 大学院教授)

祝賀会

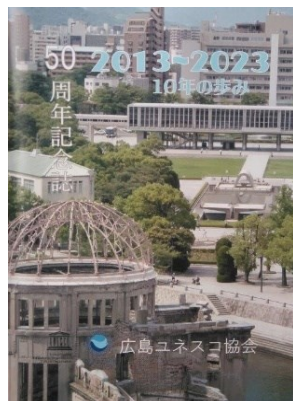


50周年「記念の集い」を終えて開かれた「祝賀会」は、活動奨励賞受賞者も交えて、明るく晴れやかに開かれま

した。
参加者は「50周年」や「受賞」の苦労、喜びを語りながら交流を深めました。
多山報恩会・中丸理事長感謝状
その中で、長年、広島ユネスコを財政面で過分なご支援をいただいていた、多山報恩会の中丸直明理事長に、感謝状を贈呈させていただきました。
また今回が26回となる「活動奨励賞」の賞状を毎回、文字に心を込めて一枚一枚、筆書きしてくださった足立柳子理事に、「思い出」を話していただきました。

記念誌発刊

広島ユネスコ設立50周年記念事業の一つである「記念誌」も無事完成。未来を託す若者の活動紹介や各部会の取り組みなど、この10年間をまとめた記録集が、「50周年誌」として発刊されました。サイズはA4判カラー刷り、34頁建て。(広報部会長 岡平裕次)



ユネスコ大邱協会を 10月に友好親善訪問へ

昨年はユネスコ大邱訪問団34名(青少年18名を含む)を受け入れ、親善友好をさらに深めることができました。
2023年5月に韓国大統領で初めて尹錫悦大統領が韓国人原爆犠牲者慰霊碑を参拝し、8月には李在外同胞庁長官が韓国人原爆犠牲者慰霊祭に参加され、また9月

末には在日韓国人被爆者が韓国政府の招待で韓国を訪問するなど「広島」を介して新たな日韓交流が行われました。これも市民による地道な交流が長年継続されてきたことが大きく影響していると思えます。2025年には日韓国交正常化60年を迎えますが、これを機会に交流をさらに発展させ充実させたいと考えています。
(国際部会長 政木恵美子)